

「課題名：子宮癌に対する放射線療法の治療成績の検討」について

○ 研究の意義・目的

子宮頸癌に対する放射線療法は根治治療の一つであり、手術と比較して侵襲が少なく、高齢者や合併症を有する場合にも比較的安全に施行できます。また、手術例において術後再発中～高リスクの場合には術後照射を行うことが標準治療であり、術後再発例に救済放射線治療が施行されることもあります。子宮体癌の標準治療は手術ですが、近年の高齢化に伴い、手術のリスクが高いと判断される場合には、根治的放射線療法が選択されることがあります。しかしながら、放射線治療特有の副作用もあります。また、治療効果を予測する因子はいまだ明らかになっていません。本研究の目的は、子宮癌に対する放射線治療成績を検討し、有効性、安全性および予後予測因子を検討することです。

○ 研究対象者

2003年1月1日から2025年12月31日までに、広島大学病院、広島市民病院、県立広島病院、福山医療センターで子宮癌の放射線治療を受けられた患者さんを対象とします。

○ 研究方法

本研究は、下記の診療録（カルテ）情報を転記して行います。

年齢、全身状態、生活歴、基礎疾患の有無と内容、重複癌の有無と内容、CT・MRIなどの画像検査を含む各種検査結果、放射線治療に関する情報、化学療法に関する情報、手術に関する情報、病気の再発の有無、副作用の有無と程度、最終状態

本研究では、上記のデータをもとに子宮癌に対する放射線治療成績を検討し、有効性、安全性および予後予測因子を検討します。

上述の情報は、各機関において氏名や住所等の個人が識別できる情報を削除し、代わりに新しく符号をつけ匿名化し、どなたのものか分からないようにします（このことを匿名化といいます）。匿名化されたデータが広島大学に提供され、解析に用いられます。個人が識別できる情報と符号を連結させる対応表は各機関で厳重に管理し、解析担当者には提供されません。また、本学から外部へ提供する試料・情報はありません。

○利用または提供を開始する予定日：本学における実施許可日（2022年4月19日）

○ 研究の実施体制

研究代表機関 広島大学病院 放射線治療科 講師 西淵 いくの

共同研究機関 広島市民病院 松浦 寛司
県立広島病院 土井 歆子
福山医療センター 中川 富夫

○ 試料・情報の管理責任者

広島大学病院 放射線治療科 講師 西淵 いくの

○ 研究期間 実施許可日（2022年4月19日） ～ 2027年3月31日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

.....

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-1545

広島大学病院 放射線治療科 講師 西淵 いくの (研究責任者)

広島大学医系科学研究科放射線腫瘍学 准教授 氏名 村上 祐司 (担当者)